

検査法	名称	分類等	使用量 (g)	溶媒	使用量 (ml)	溶解状況	使用機器	検査	着色		確認等	毒性等	現場可否検査	その他
									脂肪	食器				
クルクミン法	クルクミン		0.1	(95%・無水) エタノール	100		UVランプ		良			特になし	○	UV照射による蛍光で再確認ができるのが良い。クルクミンでは食器にキズ等があるとき色が落ちていくが、ターメリックでは色素の粘着性が少なく流水でも色がよく落ち、食器にも残りにくい。UV照射によるクルクミンの濃度をもつと下げれば良いかもしれない。
	ターメリック		1.0	(95%・無水) エタノール	100		UVランプ		良			特になし	○	
パプリカ法	パプリカ		0.1	(95%・無水) エタノール	100							特になし	できない	パプリカ試薬は食品分析で用いられており、普通エタノール等で溶けないように加工してある。アセトンには溶ける。
	パプリカ		1.0	(95%・無水) エタノール	100		無		良			特になし	○	クルクミンに比べ感度が多少落ちるが十分検査可能と思われる。
バターイエロー法	バターイエロー		0.1	(95%・無水) エタノール	100		無		良			発癌性評価2B (IARC)	×	特定化学物質第2類に指定されており使用はさけるべきと考えられる。試験室等での利用で検査の食器類は廃棄するということができれば利用も可。
	バターイエロー		0.1	(95%・無水) エタノール	100		無		良			変異原性の報告例あり	×	データシートでは特別な有害性は報告されていないという評価であったがTOXNETによる変異原性が陽性の評価が報告されており、試験室等での利用で検査の食器類は廃棄する場合は使用をさけるべきと思われる。
その他	スダンIII (ソルベントレッド23)												×	使用はさけるべきである
	オイルレッド (ソルベントレッド24)												×	使用はさけるべきである

変異原性陽性、臓器障害性あり
変異原性陽性、動物実験で催腫瘍性を示す

<H.15.11.14 学校環境・業衛生研究協議会 (山口) 抄録原稿 (by Kimata) >

